

我々の時代

山城28回 足立 学

我々は、全学連等の学生運動が沈静化した時代に山城高校に入学した。それに加え、自由をモットーに自己責任が重んじられた校風であったことから、入学当時から大人びた考え方の生徒が多かったように思える。また、休講が多く、私服通学であったことから、早くからコーヒーと煙草の味にこだわりを持つものさえ存在した。我々の時代の高校生活は、無気力・無感動・無関心の“三無主義”に象徴されていたが、同級生は、国公立大学に合格する者、全国大会に出場する者、また、学園祭に遺憾なく実力を発揮するお祭り野郎など個性豊かで、一つのこと熱くなる学年であったように思える。

みんなは、覚えているだろうか？ “三無主義”が社会問題化されている中、生徒の自発的な活動で乱れた学校生活を改善しようとするグループが生まれていたことを。名付けて “グリーン会”。

「グリーン会」の芽は、昭和五十年学園祭を通じて吹き出した。自治会の学園祭実行委員会は「くたばれ三無主義」をテーマに掲げたが、学園祭後の反省会で、荒れた学校生活の総点検が行われ、絶えない喫煙者と校内に散乱する煙草の吸い殻、校舎の落書きとゴミの散乱……このような乱れが心の荒廃も招いていると指摘した。

こうした状況の中、学園祭で生まれたクラスの応援団や自治会役員の有志は、学園祭に発揮されたエネルギーを大切にして「何か母校に残そう」と考え、校内放送やビラで呼び掛けを行い、有志を募った結果、概ね六十名の有志が集まった。そのメンバーの顔ぶれは、優等生とは決して言えない、極道ボックスの喫煙常習者、エスケープ名人、未成年者飲酒行為での始末書提出者など高校生とは思えないアウトロー参加者が意外に多かった。

昭和五十年十二月二日、生徒会総会が開催され、生徒の意識調査の結果が報告された。その中には、「母校山城に『愛情を感じている』者」は全体の五十七%もあった。いつもは、生徒会総会開催時には、喫茶店等に行き、見向きもしない生徒が総会への駆り出し役を買って出るなど、総会も熱のこもった討論が続けられた。その結果、グリーン会の問題提起は、生徒の中に浸透し、十二月三日の大掃除には、積極的にほうきやバケツを持つ生徒が増え、日頃放置されている部分にまで及び、校内

からゴミや吸い殻は消滅した。我々は三年間であるが、こういう時代に生きてきたのである。

三中・山城創立百年を前に同窓会を開催し、二十九年振りに同級生が一堂に会した。みんないろいろな職業に就き、また、いろんな人生を送っていることが思い出話から読み取れたが、本質は変わらず「母校山城に『愛情を感じている』者」は百分であると思っている。この同窓会をただの思い出だけにせず、百年を機に母校山城を愛する者の集いとしていきたい。

